

# 音楽的知覚に関する研究（Ⅲ）

—女子学生のクラシック音楽に対する態度と形成過程—

古 矢 千 雪

## Studies in Musical Perception (III)

—Attitude of Female Students toward the Classical Music and Process of the Formation—

Chiyuki FURUYA

筆者は以前より音楽を刺激とし、それに対する視覚的反応について研究（本学紀要 1973, 1976）してきたが、カラー・イメージや形態イメージといった、イメージを限定した反応を求めた研究であった。現在はイメージを含めてはいるが、視覚的反応のみに限定せず、広く、音楽刺激を受けた人間が、何を感じるか、どのような反応が実際に起りうるか、について調査している。現段階では、音楽刺激を受けた場合の反応について、あらかじめチェック・リストを作製したい為の予備調査を行なっているが、その際、被験者の音楽的体験や環境、また、クラシック音楽に対する態度等、についての調査も合わせて行なっている。今回はこの調査の中から、次の観点のもとに結果を報告する。

最近クラシック音楽が大衆化され、また、学校教育の音楽の教科においても、音楽鑑賞を重視し、クラシック音楽に親しみ、かつ味わうことに力を入れている。が、なお、クラシック音楽はどうもなじめないと、堅苦しくて嫌いだという人が、年配の人のみではなく、若い人にも多い。また、情操教育の1つとして、幼少時よりピアノのけいこをやらされる子供も多くいるが、これが将来のクラシック音楽愛好へと結びつくか、あるいは愛好まではいかなくとも、クラシック音楽に対する好意的態度の生起へと結びつくのであろうか。この点の検討を重点とし、現在大学生である者のクラシック音楽に関する実態を把握することにする。

### 目 的

先に述べた予備調査の中の、現在はクラシック音楽と直接関係のない一般学生を対象としたデータから、

1. クラシック音楽に対する好・嫌感
2. クラシック音楽が好き、あるいは嫌いになったと思う理由の内省報告
3. クラシック音楽に対する普段の接し方
4. ピアノ等の演奏技術習得の有無
5. 普段聞いている音楽の種類
6. 小さい時耳にしている音楽の種類

について整理し、一般学生のクラシック音楽に関する実態を検討したい。次に現在クラシック音楽と直接関係のある、音楽科の学生の場合も同様に検討し、さらにクラシック音楽への好意的態度の形成過程を考察する。

### I. 一般学生について

#### 被 験 者

家政系女子学生 181名

#### 手 続 き

アンケート形式により、選択肢より選ばせるものと自由記述による方法とを併用した。質問内容は次の結果の報告の中で述べる。なお以下の文中、クラシック音楽を略し、音楽とのみ記述することもある。

## 結果と考察

1. 「あなたは いわばクラシック音楽は好きですか。」の質問に対し、1. 大好き 2. 好き 3. 好きでも嫌いでもない 4. 嫌い 5. 大嫌い の5段階で回答させた。結果は次のようであった。

大好き 4人, 好き 43人, 計47人 (26.0%)

好きでも嫌いでもない 110人 (60.8%)

大嫌い 5人, 嫌い 19人, 計24人 (13.3%)

上記の3グループを、それぞれAグループ、Bグループ、Cグループとし、以下のデータ処理はグループ別に行なうことにする。

2. 「あなたはいつ頃からクラシック音楽が好き、あるいは嫌いでしたか。」「なぜ、あなたはクラシック音楽が好き、あるいは嫌いになったと思いますか。」の質問により、クラシック音楽に対する好嫌感の発生日理由の一端が把握できればと思った。

### Aグループ (クラシック音楽に好意的グループ)

幼稚園の頃から好きだったと思う …… 1人

小学生の頃から好きだったと思う …… 16人

中学生の頃から好きだったと思う …… 22人

高校生の頃から好きになったと思う …… 5人

いつ頃から好きになったかわからない … 3人

クラシック音楽に好意をもったと思われる時期についての内省報告の結果は、上ようになった。この内省は、各自の記憶を想起させた結果得られたものであるから、その記憶をよみがえらせた手掛り、つまり、当時のクラシック音楽との接点も判明できる訳である。クラシック音楽を好きになった理由、として被験者が答えている内容は次に述べるが、この回答の中には、クラシック音楽とどのように接触したか、どのような音楽環境にあったか、クラシック音楽と接してどのような感情を持ったか 等の多様な意味内容が含まれている。

幼稚園の頃から好きだったと答えた被験者は、4才から9才までピアノを習っているが、当時、彼女の周囲の人がクラシック音楽を聞いていたから、と報告している。

小学生の頃から好きだったと答えた16人の内省報告は次のようである。

ピアノを習っていたので、クラシック音楽になじみがあった。(2人) この2人は10年以上ピアノのレッスンを受けている。

器楽合奏のクラブに入っていたから。

母がレコードを買ってきてくれて、それ以来よく聞くようになったから。

レコードを聞いて好きになった。この被験者は小学校1年より8年間ピアノのレッスンを受けている。

音楽の授業中音楽鑑賞があったので、自然と好きになった。(2人)

聞いていると、なんとなく心がなごむ、落ちつく、楽しくなる等、快的な感情を持ったから。(5人) この5人のうち2人は、高校生時代になって、ピアノのレッスンを受けている。

クラシック音楽を好きになった理由は、よくわからない。なんとなく好きになったと思う。(4人) この4人のうち3人は、小学生時代にピアノのレッスンを受けていた。

中学生の頃から好きだったと答えた22人の内省報告は次のようである。

ブラスバンドでフルートの演奏をしてから。

父がレコードを買ってくれ、親しめる曲が多かった。姉がピアノを弾いたり、レコードを聞いていたので、なんとなく好きになった。(2人) この2人のうち1人は小学生の時ピアノのレッスンを受けているが、もう1人は、邦楽のレッスンを長期間受けている。

音楽の授業中クラシック音楽をよく聞かされていた。きれいな曲だった。気に入った曲があった。心が落ちついた。(5人) このうち2人は1年位ピアノのレッスンをうけており、1人は高校までの8年間ピアノのレッスンをうけている。

オーケストラの演奏によってできる、その曲のイ

メージが好きだった。この被験者は中学2年までの3年間ピアノのレッスンをうけていた。

クラシック音楽を聞いていると、心が休まる、気分がよくなるから。(5人) このうち2人は小学生時代にピアノのレッスンをうけている。またこのうち3人は小学生の頃はクラシック音楽は嫌いだったと答えており、先に述べたピアノのレッスンをうけていた被験者も、この中に入っている。

以前はクラシック音楽を意識しなかったが、パイプオルガンの音色が快よくこえたから。この被験者は小学生から現在まで断続的にピアノのレッスンを受けている。

音楽を聞くことが好きだから。  
理由はよくわからない。(5人)

高校生の頃から好きになったと答えた5人の内省報告によると、

吹奏楽クラブに入って自分で演奏するようになってから。この被験者は小学生の間ピアノのレッスンをうけている。

聞いていると気分がおちつくから。この被験者は高校生になってピアノのレッスンを始めている。

理由は思いつかないが好きになった。(3人)

いつ頃からクラシック音楽が好きになったかよくわからない、と答えた3人は、いつのまにか好きになっていた、聞くとおちつくと内省報告している。

Bグループ(クラシック音楽に対し、積極的に好意を持たないが、嫌意も持たないグループ)

過去に好きな時期もあったが、今は別に好きでも嫌いでもない。……………4人

以前から好きでも嫌いでもない。……106人

過去に好きな時期もあったと答えている4人の被験者の内省報告は次のようであった。

小学校から高校の初めまでは好きだったが、今は強いて聞こうとは思わない。

小学校の後半頃は好きだったが今は別に。

中学生の時は好きだった。音楽の授業で、クラシッ

ク音楽にこっていたから。この被験者は幼少時より、オルガン、ピアノを習い、現在はエレクトーンを習っている。

幼少時より中学校の初め頃までは好きだったが、次第にクラシックを聞く機会より、ニュー・ミュージックやディスコティックな音楽を聞くようになって、自然に遠のいていった。この被験者は、幼少時より習っていたピアノを高校に入る頃やめている。

以前から好嫌感なしと答えた106人の内省報告をまとめると次のようになる。まず、小学生から中学生の頃3年以上ピアノのレッスンを受けた被験者の報告から述べる。

ピアノを習っていたから極端に嫌いではないが、好きでもない。(ピアノ歴13年)

聞くとジーンとすることもがあるが、別に好きでも嫌いでもない。(ピアノ歴6年)

静かなBGM的なのはよいが、激しいのはうるさい。(ピアノ歴7年)

好きな曲もあるが、退屈する。(ピアノ歴7年, 12年)

別の音楽の方に興味があり、強いて聞こうとは思わない。(ピアノ歴3年, 5年)

堅苦しいと思う。特に良いと思う曲がない。自分に合わないと思う。(各々, ピアノ歴5年, 8年, 3年)

普段クラシック音楽に接する機会がない。(ピアノ歴3年~8年 8人)

学校で聞いていだけで、別になんとも思わない。(ピアノ歴3年)

クラシック音楽には興味がない。(ピアノ歴4年~5年 5人)

回答なし 8人

次にピアノ歴2年以下・経験なしの被験者の内省報告をまとめる。

気分により好嫌がある。

別の音楽を聞くことの方が多いから。

歌の入っている方がより好き。

静かな曲はあまり好きではない。

普段聞きなれていないから。(11人)

学校で聞いていだけで、別になんともない。

興味がない。(10人)

聞いていて、おもしろくない。(4人)

堅苦しい感じがする。(2人)

回答なし。(55人)

C グループ (クラシック音楽に対し、嫌意を持つグループ)

以前は好きでも嫌いでもなかった。…………… 2人

以前から嫌いだった。…………… 22人

以前からクラシック音楽は嫌いだと答えている被験者の中には、小学校の間、あるいは中学校にかけて、5～6年はピアノのレッスンをうけている者が3人、4年1人、1～2年が2人いた。

嫌いだという理由として報告した内容は次のようで、あとは無回答であった。

聞いていておもしろくないから。

堅苦しいから。(2人)

興味がないから。(4人)

フォークや歌謡曲に夢中になったから。

普段クラシック音楽を聞かないから。

とにかく嫌いだ。(2人)

3. 被験者の好嫌感に関する内省報告の内容をまとめる際、ピアノのレッスンを受けていた被験者が否か関連づけたが、かなり多くの者がレッスンをうけていたことがわかった。ピアノ以外にも、クラシック音楽と接触のある場合も考えられるが、本調査の中には、吹奏楽クラブに入った被験者の、フルートとクラリネットの場合と、ピアノの長期習得の延長上にバイオリンを習ったという3例のみで、他に例がなかった。

そこで、A・B・Cのグループ別に、ピアノを習った経験の有無の状態をまとめると、次のようになる。

A グループ (N=47)

5年以上習っている者 …… 18人 (38.3%)

3年以上習っている者 …… 3人 (6.4%)

2年以下習った者 …… 5人 (10.6%)

習っていない者 …… 21人 (44.7%)

B グループ (N=110)

5年以上習っている者 …… 20人 (18.2%)

3年以上習っている者 …… 16人 (14.5%)

2年以下習った者 …… 10人 (1.1%)

習っていない者 …… 64人 (58.2%)

C グループ (N=24)

5年以上習っている者 …… 3人 (12.5%)

3年以上習っている者 …… 1人 (4.2%)

2年以下習った者 …… 2人 (8.3%)

習っていない者 …… 18人 (75.3%)

5年以上ピアノを習っている者の数の、グループ間の差の有意性を検討した。A-B間、A-C間に1%水準(臨界比)で有意差があった。

3年以上ピアノを習っている者の数の、グループ間の差の有意性は、A-B、A-C、B-Cの全てにおいて、1%水準で認められた。

4. 以上の2, 3より、クラシック音楽に対する好感が発生する理由を考察すると次のようになる。

ピアノを長期間習うことはクラシック音楽との接触が多くなり、自然好きになるといえる。これは、3の結果からも肯定できる。しかし単に長期間ピアノを習うだけでは、積極的にクラシックが好きになるものでもない。

逆に、ピアノを習ったことのない者でも、家族の者がレコードを買って聞かせてくれた、姉が聞いていたので自然に、学校の音楽の時間によく聞かされたから等、音楽環境の影響により、クラシック音楽に好意をもつようになっている。

幼少時よりピアノを習わず傾向は最近さらに盛んになった。本調査の被験者181名中71名(39.2%)がそれである。この71名中22名(31.0%)、また、5年以上ピアノを習った者40名中17名(42.5%)、3年以上ピアノを習った者とした場合では58名中19名(32.8%)のみが、現在クラシック音楽好きになっている。この結果は、いかに幼少時よりピアノを習わせ、情操教育の一つになればと願っている世の親たちの期待をかなり否定したものといえよう。

これは、子供がピアノのレッスンを受けに行くだけ

では不十分であり、子供をとりまく環境が非音楽的であれば、クラシック音楽に対する好意的態度が生起せず、ピアノのレッスンを受けなくとも、小さい頃からクラシック音楽に接する機会を多くし、しかも聞いていて快的な感情を持たせるよう配慮すれば、クラシック音楽好きになり、さらに将来楽器の演奏の練習を始める意欲を生むことにもなるのである。とかくピアノに限らず、楽器の演奏技術を身につけさせることに重点がおかれ、音楽好きな子供を育てるという音楽教育の基本、あるいは、音楽に接した時快的な感情を生起させる情操の教育の基本が軽視されている現状が、一面ではあるが、この調査の結果に現われてきた。

5. 次に被験者が普段クラシック音楽をどの程度聞いているかについてグループ別に報告する。

#### A グループ (N=47)

よく聞いている …… 7人 (14.9%)  
時々聞いている …… 14人 (29.8%)  
あまり聞かないが聞こえてくると聞くことがある  
…… 23人 (48.9%)  
全然聞こうとしない …… 0  
聞くより演奏する方 …… 3人 (6.4%)

#### B グループ (N=110)

よく聞いている …… 0  
時々聞いている …… 4人 (3.6%)  
あまり聞かないが聞こえてくると聞くことがある  
…… 76人 (69.1%)  
全然聞こうとしない …… 28人 (25.5%)  
聞くより演奏する方 …… 2人 (1.8%)

#### C グループ (N=24)

よく聞いている …… 0  
時々聞いている …… 0  
あまり聞かないが聞こえてくると聞くことがある  
…… 5人 (20.8%)  
全然聞こうとしない …… 19人 (79.2%)

上の結果で明らかのように、クラシック音楽に好意を持つ者でも、普段は積極的に聞こうとはせず、聞こ

えてくれれば聞くという者が多い。また、よく聞いている、時々聞いているという者も、聞くことに専念するのではなく、何かしながら聞くという者が圧倒的であるという結果も得られた。

6. では最近の女子学生は、普段どのような種類の音楽をテレビ・ラジオ・レコード・テープ等で聞いているか次に報告する。

普段、テレビ・ラジオをつけたままにすると種々の音楽が聞こえてくるし、街中にいても BGM 等として種々の音楽が聞こえてくる。したがって、被験者はそのような中で、積極的に聞いていると意識した音楽について答えている。複数の回答をした者もいる為、延人数で結果を表わす (表1)。音楽の種類を表わすことばは、あらかじめいくつか用意し、他は被験者の自由記述とした。

各被験者がどのようなカテゴリーを持つかは不明である。例えば演歌と歌謡曲の分類、フォークとニュー

表1 普段聞いている音楽 (一般学生 N=181)

種 類	グループ			計 (%)
	A	B	C	
ピ ア ノ 曲	4	1	0	5 ( 0.8)
管 弦 楽	4	1	0	5 ( 0.8)
クラシック全般	4	0	0	4 ( 0.6)
歌 謡 曲	29	79	21	129 ( 20.0)
演 歌	5	12	0	17 ( 2.7)
フ ォ ー ク	36	83	13	132 ( 21.2)
ニュー・ミュージック	18	64	13	95 ( 15.2)
ロ ッ ク	15	29	6	50 ( 8.0)
デ ィ ス コ	10	35	6	51 ( 8.2)
ポピュラー全般	11	19	6	36 ( 5.8)
映 画 音 楽	13	18	0	31 ( 5.0)
T V テーマ曲・歌	1	8	0	9 ( 1.4)
アニメテーマ曲・歌	3	4	0	7 ( 1.1)
C M ソ ン グ	15	21	6	42 ( 6.7)
ジ ャ ズ	1	5	0	6 ( 1.0)
ポ ッ プ ス	2	0	0	2 ( 0.3)
シャ ン ソ ン	1	0	0	1 ( 0.2)
ミ ュ ー ジ カ ル	0	1	0	1 ( 0.2)
延 人 数	173	380	71	624 (100.0)

ミュージック、ロックとディスコティックな曲の分類等がそうであるが、表1では、被験者の意識に現われた分類そのままを用いて表わした。後の表2も同様である。

最近の女子学生は、フォーク、ニュー・ミュージック、歌謡曲、ロックやディスコ曲を日頃よく聞いており、ついで、映画やテレビで耳にする音楽をよく聞いているといえる。

7. 小さい時耳にした音楽は何かと質問した結果、ほとんどの被験者が、歌謡曲とフォーク、テレビ等から聞こえてくるCMやテーマの音楽と答えている。他には、子供らしく童謡という回答もあった。また、家族の者が聞いていたので自然に耳にしたとしてあげているものに、バイオリン曲、ピアノ曲、クラシック音楽、日本民謡があったが、この例のみであった。

これらの結果は被験者の記憶による答えであることは当然であるから、いかに幼少時よりテレビやラジオの番組やCMが強く印象に残るか、この結果からも明らかになったといえる。

## II. 音楽を専門とする学生について

### 被 験 者

器楽専攻の女子学生 52名

### 手 続 き

一般学生の場合と同じ

### 結果と考察

1. クラシック音楽と直接関係のある音楽科の器楽専攻の学生が被験者であるから、当然クラシック音楽は好きと回答すると思われた。が、結果は次に示すようになった。

A. 大好き 7人, 好き 33人, 計40人 (76.9%)

B. 好きでも嫌いでもない 11人 (21.2%)

C. 大嫌い 1人 (1.9%)

2. いつ頃から好きあるいは嫌いになったか。なぜ好きあるいは嫌いになったと思うか。この質問に対する内省報告の内容を、前の一般学生の場合と同様、A・B・Cのグループ別に報告する。

### A グループ

小学生の頃から好きだったと思う …… 19人

中学生の頃から好きだったと思う …… 14人

高校生の頃から好きになったと思う …… 4人

大学生になって好きになった …… 1人

いつ頃から好きになったかわからない … 2人

一般学生の場合は、中学生の頃から好きなのが46.8%, 小学生の頃からと答えた者が34%であったが、音楽を専門とする学生の場合は逆転し、小学生の頃から好きなのが47.5%, 中学生からと答えた者が35%であり、早い時期から好意を持つようになったといえる。

クラシック音楽を好きになった理由として報告された内容は、一般学生の場合とほぼ一致するが、中には音楽を専門として選択した学生らしい報告もあった。

小学生の頃から好きだったと答えた者の場合

小さい時からピアノを習っていたので自然に。(6人)

親がレコードをよく聞かせてくれたから。

学校の音楽の時間に良い音楽を聞かせてくれたから。

音楽の先生の影響で好きになった。(2人)

ある曲を聞いて感動したから。

親が好きでよく聞いていたので、耳になじんだ。

音楽を聞くと気分がおちつくから。(2人)

なんとなく。回答なし。(5人)

中学生の頃から好きだったと答えた者の場合

ピアノを習いだしてからなんとなく。(4人)

吹奏楽クラブに入ってから好きになった。

学校の音楽の時間に音楽鑑賞をしてから。

ある曲を聞いて感動したから。

レッスンを受けて曲が仕上がった時の喜びがなんともいえない快的であった。

ピアノを弾いていて、音色の良さがわかるようになったから。

なんとなく。回答なし。(5人)

高校生になってから好きになったと答えた者の場合  
小さい時からピアノを弾いていたのでクラシック音楽は嫌いではなかったが、中学・高校とコーラス部、ブラスバンド部と音楽に親しむようになって、好きになった。

学校の音楽の時間によく聞かせてもらったから。  
聞いていると気分がおちつくから。  
ピアノを演奏する機会が多かったから。

大学生になってから好きになったと答えた者は、学内演奏会で発表を聞いて好きになったと報告している。  
いつから好きになったかわからないと答えた者の場合は、小さい時からピアノを習っていたからではないかと報告している。

#### B グループ

以前は嫌いだったが、今は好きでも嫌いでもない  
…………… 1人  
以前から好きでも嫌いでもない …………… 9人  
回答なし …………… 1人

B グループの被験者11人の内1人が、自省報告として、好きな曲もあれば嫌いな曲もあるので、と述べているのみで、他は回答なしであった。

#### C グループ

以前から嫌いで、今は大嫌い …………… 1人  
クラシック音楽には興味がないと答えている。

3. 質問は、「いわばクラシック音楽は好きですか。」というグローバルな形をとるにもかかわらず、器楽を専門とする学生の中に、積極的にクラシック音楽に好意を持たない者が2割余りもいることが何を意味するか、注目すべきであろう。

4. 一般学生の場合にも述べたが、音楽好きの人間をつくるには、単にピアノのレッスンを長時間受けさせるだけでなく、気分を快的にさせてくれる曲をよくきかせることや、音楽を聞いて感動するような機会を

つくること、自から演奏する楽しみを持たせること等の音楽的環境作りが欠かせないものであることが、この結果から、さらに明らかにされた。

5. 普段クラシック音楽をどの程度聞いているか、グループ別にまとめると次のようになる。

#### A グループ

よく聞いている …………… 13人 (31.7%)  
時々聞いている …………… 22人 (53.7%)  
あまり聞かないが聞こえてくれば聞くことがある  
…………… 5人 (12.2%)  
聞くより演奏する方 …… 1人 (2.4%)

#### B グループ

よく聞いている …………… 1人 (%は省略)  
時々聞いている …………… 5人  
あまり聞かないが聞こえてくると聞くことがある  
…………… 4人  
聞くより演奏する方 …… 1人

#### C グループ

時々聞いている …………… 1人

一般の学生に比較すると、よく聞いている方になる。何かしながら聞く場合が多いという報告がほとんどであったが、時間的余裕の問題もあるのでこの点は問題としない。

6. では日頃クラシック音楽を専門とする女子学生が、どのような種類の音楽をよく聞いているか、について報告する(表2)。

最近の女子学生が聞く音楽は、一般の学生も音楽を専攻する学生も変りはないようである。しかし、やはり音楽を専攻する学生らしく、普段聞いている音楽として意識した中に、クラシック音楽が2割弱ではあるが含まれていたことは、被験者の特殊性を表わしていることになるのであろうか。

たしかに、日常生活の大半がクラシック音楽(現代の作品も含める)との関わりであると言ってもよい、音楽専攻の学生は、普段それとは関係のない音を楽しむのが当然だ、という考え方もある。それにしても、歌

表2 普段聞いている音楽（器楽専攻学生 N=52）

種 類	グループ		計 (%)
	A	B + C	
歌 曲 ・ コ ー ラ ス	1	1	2 ( 1.2)
ピアノ・バイオリン曲	4	2	6 ( 3.7)
管 弦 楽	4	0	4 ( 2.4)
クラシック全般	19	0	19 ( 11.6)
歌 謡 曲	18	7	25 ( 15.2)
演 歌	2	0	2 ( 1.2)
フ ォ ー ク	24	7	31 ( 18.9)
ニュー・ミュージック	8	5	13 ( 7.9)
ロ ッ ク	9	4	13 ( 7.9)
デ ィ ス コ	6	3	9 ( 5.5)
ポピュラー全般	10	3	13 ( 7.9)
映 画 音 楽	7	0	7 ( 4.3)
アニメ・テーマ曲	1	0	1 ( 0.6)
C M ソ ン グ	6	4	10 ( 6.1)
ジ ャ ズ	4	1	5 ( 3.0)
ボ ッ プ ス	1	1	2 ( 1.2)
シ ャ ン ソ ン	1	0	1 ( 0.6)
ミ ュ ー ジ カ ル	1	0	1 ( 0.6)
延 人 数	126	38	164 (100.0)

謡曲かフォークのいずれか1つは、全員が聞いていることになる。

7. 小さい時耳にした音楽の種類は何かという質問に対しても、一般学生と同様、歌謡曲、フォーク、テレビから聞こえてきたテーマ曲や CM という回答があった。また一般学生にも例はあったが、ピアノやオーケストラの演奏を聞いていたと回答した者が、Aグループに7例程あった。

歌謡曲やフォーク等を好んで聞くという傾向は、幼少時より本人の意志にかかわらずこの種の音楽が耳に入ってくる環境から、自然に発生してくると思われる。この同じ状態を他の音楽にもあてはめれば、いわば音楽好きの人間が形成されることになるのである。

ここにも音楽的環境の問題が現われていると思われる。

## 結 論

音楽教育の柱となる学習目標の1つとして、音楽への愛好心を育てることがあげられている。また、家庭における育児の目標にも、情操豊かな人間にしたい、ということが当然のように言われている。しかし実際には、どの程度実施され、どのような成果があるのであろうか。

本調査は、現在大学生になっている被験者を対象に、過去の出来事を想起させ、その記憶を手掛りとして、実態を把握したものであるから、やや偏った結果とも考えられるが、ある面では事実を表わしている。

クラシック音楽好きの人間になったと思われる理由として、学校の授業中にレコード鑑賞をし、よい音楽を多く聞かされた、家庭内でよく音楽が聞こえていた、さらに、小さい時からよく耳にしていた等の記憶が、一般の学生も音楽を専門とする学生にも残っていた。これは、音楽教育や家庭内での音楽的環境作りが成功した例だと思われる。また、いつのまにか好きになったとか、聞いていると気持ちがいい、おちつく等と述べている学生もいるが、これも途中のプロセスの記憶がうすく、結果だけ意識したものと思われ、成功例と考えられる。

しかし、本調査において、積極的にクラシック音楽に好意を示さない者が指摘するように、日頃あまり耳にしないから、聞く機会がないから、さらには、おもしろくないとか堅苦しいから嫌いだという結果が多くでたということは、家庭内の環境や音楽教育の内容に多くの問題があることを、明らかにしている。

全ての人間が、全てのクラシック音楽に好意を持ち、積極的に接触しなければならないというのではなく、いくつかの曲に対してだけでも否定的態度を持たない人間を育てることは、また、クラシック音楽に限らず、そして歌謡曲やフォーク等に偏らず、様々の音楽を受け入れることができるようにすることは、広い意味の情操教育といえ、今日の知育偏重教育への批判と共に、重要性がまた見直されるべきである。

## 参考文献

梅本堯夫：音楽心理学 1966 誠信書房



### Abstract

This is to examine the attitude of female students toward the classical music and the process of the formation of the attitude.

#### Method

Subjects. 232 students of women's junior college. (Group 1: 181 students of the domestic economy course and Group 2: 52 students of the musical course.)

#### Questionnaire.

1. Do you like the classical music?  
(like much, like, don't like or dislike, dislike, dislike much)
2. When did you come to like the classical music?  
(elementary school, junior high school, senior high school, etc.)
3. What do you think of the reason why you like or dislike the classical music?
4. How do you listen the classical music?  
(listen it frequently, listen it sometimes, don't listen it so much, don't listen at all.)
5. Do or did you take lessons in the piano? (group 1 only)
6. What kind of music do you listen habitually?
7. What kind of music did you listen in childhood?

#### Results

1. Group 1. — like 26.0%, don't like or dislike 60.8%, dislike 13.3%.  
Group 2. — like 76.9%, don't like or dislike 21.2%, dislike 1.9%.
2. Group 1. — when elementary school 34.0%, when junior high school 46.8%, otherwise 19.2%.  
Group 2. — when elementary school 47.5%, when junior high school 35.0%, otherwise 17.5%.
3. The reason why ones like it.  
To take lessons in music from a child.  
To listen many musics frequently from a child at home.  
To listen many nice musics during school hours.  
To be much impressed by the music.  
To take pleasure in playing for oneself.
4. Group 1. — like-group (frequently 15.9%, sometimes 31.8%, not so much 52.3%) not like or dislike-group (sometimes 3.7%, not so much 70.4%, not at all 25.9%) dislike-group (not so much 20.8%, not at all 79.2%)  
Group 2. — like-group (frequently 32.5%, sometimes 55.0%, not so much 12.5%) not like or dislike-group (frequently 1, sometimes 5, not so much 4 in number) dislike-group (sometimes 1 in number)
5. Ones who took lessons in or from a child are 71 out of 181 in number.
6. The results of Question No. 6 and No. 7 are similarly.  
Popular songs, folk songs, new musics, rock or discotic musics and TV or CM songs are listened habitually in Group 1 and 2.
7. It appeared that the importance of home environment and school education to make the sentiment must be reaffirmed.